

小泉委員ヒアリング内容

1. スマートシティの推進プロセスについて

- ・スマートシティの推進には、行政 - 市民間の情報・データの相互フィードバックが重要であるため、「市民の参画」が必須である。
- ・市民参画を促すためには、参画のための「プロセス」や、市民側の生活の質の向上の「実感」が重要。
- ・市民から取得した様々なデータを施策に活用していくため、場合によっては条例制定を含むルールや仕組みづくりについて検討すべき。なお、日本ではオプトイン方式（データ活用についてあらかじめ同意を得ること）でデータ活用を進める流れになっている。
- ・市民参画を進めるにはリビングラボ（市民参加型の実証）が有効であり、参加性を確保する観点から、中心部、郊外部・中山間地域など各所で実施すると良いのではないかと。
- ・既存のスマートシティ関連施策についても、改めて市民目線で、どのような効果があるのか棚卸しを行うことが必要。

2. スマートシティとコンパクトシティの関係について

- ・「コンパクトシティ政策の深化」との記載があるが、「深化」とは何かを議論すべき。
- ・コンパクトシティ政策と矛盾することがないように配慮して作成することは必須。
- ・一方で、スマート化を進める中で、コンパクトシティとしての富山市のあり方を、改めて検討することも必要であるのかもしれない（特に、当面、人々が住み続けるであろう郊外部、中山間地域のあり方の検討。例えば、スマート化が環境負荷を増大させることがない、郊外部、中山間地域のあり方とは？ など）。
- ・情報インフラの整備の在り方も重要な検討課題。

3. ビジョンの検討にあたって

- ・ビジョン策定によって市民参画を加速化させ、市民・企業・行政の共創型のまちづくりへとつなげるとよい。
- ・そのためには、市民ワークショップ等を通じて、市民から意見を聴取し、ビジョンの策定作業に反映することが大切。
- ・ビジョンを策定する理由、ビジョンの活用方法等の枠組みを整理することが必要。
- ・富山市が想定しているビジョンの構成をあらかじめ提示してもらおうと議論しやすい。

【富山市が現時点で想定しているビジョンの構成イメージ】

- ・社会情勢、国・県の動向
- ・富山市の現状・問題
- ・富山市（全体、各地域）のありたい姿
- ・ありたい姿の実現に向けた「富山市型スマートシティ」の定義及びコンセプト
- ・ありたい姿の実現に向けた課題
- ・スマートシティとして取り組むべき施策の方向性
- ・事業領域、重点領域
- ・推進体制（産官学民それぞれの役割）
- ・ロードマップ など